

フタオビコヤガ（イネアオムシ）情報第1号

平成21年7月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

6月下旬の水稲巡回調査（県内156ほ場）では、フタオビコヤガ幼虫（イネアオムシ）による被害株率が3.36%（平年：0.34%、前年：0.63%）でやや多い状況です。地域別の被害状況をみると、被害株率は尾張地域で1.09%、西三河地域で4.24%、東三河地域で5.19%と、西三河地域、東三河地域での発生が多くなっています。前年、発生が多かったほ場では、今後の発生動向に注意してください。

2 生態

愛知県では年4～5回の発生で、蛹で越冬し4月下旬頃から成虫が発生します。成虫は体長約10mm、開翅長20～25mmの黄褐色の蛾で、前翅に褐色の2本の斜めの帯があり（図1）、これが名前の由来となっています。卵は0.5mm程度の饅頭型です。幼虫は緑色で、老熟すると体長20mm内外でシャクトリムシのように歩行します（図2）。若齢幼虫はかすり状の食痕（図3）を残しますが、その後は葉縁からかじりとったように食害し、階段状の食痕になります（図4）。



図1 成虫

図2 シャクトリ歩行する幼虫

図3 初期の被害葉

図4 食害を受けたイネと幼虫

3 防除対策

- (1) 出穂期前に被害を受けると、出穂遅延や登熟阻害の原因となるので、多発水田では、表の薬剤によりできるだけ早く防除しましょう。
- (2) 葉色の濃い水田や、山沿いの水田では被害が集中する場合がありますので、ほ場ごとに発生状況を確認して防除を行いましょう。

表 フタオビコヤガの主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	希釈倍数・使用量	収穫前日数	使用回数
スミチオン乳剤	2000～4000倍	21日前	3回
ディプレックス乳剤・粉剤DL	2000倍・3～4kg/10a	14日前	4回
MR.ジョーカーEW	2000倍	14日前	2回
ダントツ粉剤DL	3kg/10a	7日前	3回
スタークル粉剤DL、アルバリン粉剤DL	3kg/10a	7日前	3回
エルサン乳剤・粉剤3DL	1000倍・3kg/10a	7日前	2回